

テクニクス 55 周年記念スペシャルコンサート報告 (2020.11.21)

1. はじめに

『テクニクス 55 周年記念スペシャルコンサート』と銘打って、最新のリファレンスシステムでレコードを鑑賞できる、スペシャルコンサートが開催されましたのでオンラインの視聴を申し込みました。



2. コンサート内容の情報

- 申し込み手続きの外注先 Peatix の登録情報漏れトラブルにより視聴が危ぶまれましたが、何とか試聴できました。この間の問題処理について開催元のパナソニックミュージアムと申し込み受託の Peatix の対応の責任関係が明確ではありませんでした。パナソニックミュージアムからは Peatix の参加申し込み停止のメールの転送だけであり、Peatix から顧客情報漏洩の詳細の連絡やお詫びの連絡もなく、未だに登録データがどうなったかもわかりません。また、申し込みをした PC と同じアドレスの音楽用 PC からのアクセスができず、PC を切り替えざるを得ませんでした。また、Zoom を使用しているため、Zoom に不慣れな参加者は大変だろうと思いま

す。Peatix のイベントシステムはこのようにセキュリティや便利性与問題があり、丸投げをしているパナソニックミュージアムにも問題があります。

本コンサートのテクニクスの開催案内は下記のとおりです。

<https://www.phileweb.com/news/audio/202011/17/22080.html>

<https://www.panasonic.com/jp/corporate/history/panasonic-museum/event/technics.html>

「テクニクス 55 周年を記念し、最新のリファレンスシステムでレコードを鑑賞できる、スペシャルコンサートを開催します。会場内には、55 年間の歴代製品とパナソニックミュージアムに収蔵している製品を特別展示。また 11 月に発売されるテクニクスのミニチュアコレクションを実機と一緒に展示します。この日だけの、貴重な体験ができるイベントです。

<概要・参加お申込み>

■日時：

2020 年 11 月 21 日（土曜日）（90 分間／途中休憩 5 分）

<午前の部> 10:00 開場 10:30～12:00

<午後の部> 13:30 開場 14:00～15:30

■会場：

パナソニックミュージアム 松下幸之助歴史館

■対象：

どなたも無料でご参加いただけます。（お子さまのご入場は、小学生以上とさせていただきます）

■参加方法：

1. ミュージアムでご参加：各回先着 30 名様（事前申込み不要）

午前・午後ともに、当日 9:00 より会場にて受付を行います。

※満席の場合、講演中は会場へお入り頂けません。

2. オンラインでご参加：各回 100 名様（事前申込み必要）

ZOOM ウェビナー開催。Peatix にて参加申込みをお願いします。

午後の部（締切：開始 1 時間前）

<スペシャルコンサート>

■テクニクス・リファレンスシステムによるアナログレコードコンサート

1950～60 年代の貴重な名盤や、1970～80 年代の懐かしい歌謡曲や洋楽、さらに最新のダイレクトカッティング盤まで、テクニクススタッフの解説とともに、ゆっくりお楽しみいただけます。

【プレゼンター】アプライアンス社テクニクス国内マーケティング主幹上松泰直氏
<会場内 特別展示>

■テクニクス歴代製品ヒストリー展示

テクニクス 55 周年を記念し、歴代製品の中からセレクトしたモデルを会場に展示。歴史年表とあわせてご覧いただけます。ものづくりイズム館の収蔵庫に保管している製品も展示します。」

3. コンサートの経過

参加申し込みは午後の部の ONLINE 参加です。上記のとおり、PC を切り替え、Zoom 自体は使い慣れているので問題ありません。但し、通常の会議で使う Zoom は音質上の問題があるので、このあたりがどうなっているかが課題です。最初に使用機器の説明がありました。



アナログプレイヤー テクニクス SL-1000R

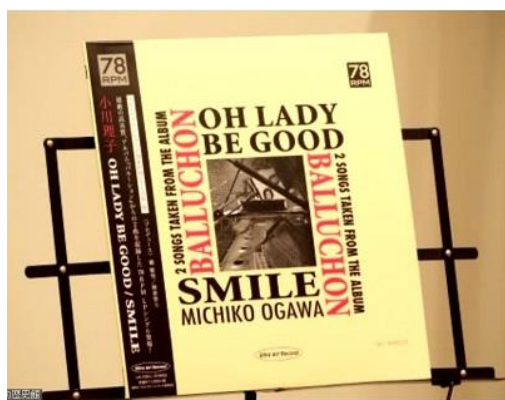
カートリッジ フェーズメーション PP-2000

プリメインアンプ (フォノイコライザー内蔵) テクニクス SU-R1000 (写真右)

SACD-CD プレイヤー テクニクス SL-G700 (展示のみ)

スピーカー テクニクス SB-R1

引き続き展示されている歴代の機器の紹介があつてから、レコードの再生に移りました。再生された盤は次のようなものです。



ズビン・メータ指揮ロスアンジェルスフィル ホルスト：惑星
岩崎宏美

小川理子 ジャズ 78回転盤 (ジャケット写真左)

柴田まゆみ ドーナツ盤

ロック

休憩後、機器のミニチュアの紹介があって、再び、レコードの再生に移りました。

ゲーリー・カー コントラバス

ソノシート

山下達郎

吉田美奈子

サイモンとガーファンクル

上原綾子 Direct Cutting45回転盤 非売品 (ジャケット写真右)

以上の選曲については、プレゼンターの個人趣味が、濃厚すぎるくらいがあり、テクニクスブランドの真価を検証するには最適とは言えません。また、オンラインの音質はモノラルであり、音切れはありませんが、ビット落ちの歪みっぽい印象です。一言で表現すれば、アーケード商店街のBGMのような音でした。オーディオイベント企画のYouTubeによる配信の[オーディオルネサンス](#)に比べて相当に劣りますし、IIJがライブ配信を行った[119 TWILIGHT CONCERT](#)のようなコンサートの配信には比べものになりません。

従って、せっかくの78回転盤やDirect Cutting45回転盤のような盤の音質を云々できるような状態ではありませんでしたし、ハイエンドカートリッジのPP-2000が、下記サイトで紹介されているような意欲的な設計がなされている、新製品のプリメインアンプSU-R1000のフォノイコ段でどのように再生されるかを判断するには至りませんでした。

<https://jp.technics.com/products/r1000/>

<https://online.stereosound.co.jp/ct/17407937>

4. まとめ

今回のデモの音質は、Peatexというイベントサービス会社に丸投げして、会議態のイベント向けのZoomを使用したことによるものであり、音楽配信サービスとしてはグレードが落ちる配信インフラによるものと思われます。従って、テクニクスブランド機器の音質、それも最高のアナログ音質を届けるには不向きであったと思います。なお、Zoomで音楽情報を伝送する限界については[音声録音ソフトの導入\(10\)](#)において検討しています。

以上

